

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 11 日作成)

委員会名	鋼構造変形限界設計小委員会	主 査 名：桑村 仁
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	鋼構造建築物が、機能性、無損傷性、修復性、安全性のそれぞれの限界に達したときの構造躯体、非構造部材、建築設備の性能評価方法を、主として変形限界に着目して整理し、性能設計のガイドラインを提案する。2001 年度と 2002 年度は国内外における性能設計の調査、2003 年度は WG 活動、2004 年度はガイドラインのまとめを行う。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：桑村 仁(東京大学) 幹事：原田幸博(千葉大学) 委員：井戸田秀樹(名古屋工業大学)・内田保博(鹿児島大学)・笠井和彦(東京工業大学)・向野聡彦(日建設計)・小林紳也(小林構造研究室)・杉本浩一(大林組)・清家 剛(東京大学)・高橋良典(竹中工務店)・田中直樹(鹿島建設)・田中正博(竹中工務店)・藤村洋人(大建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	構造躯体性能WG : 鋼構造建築物の構造躯体の性能評価法を提示する。 非構造部材性能WG : 鋼構造建築物の非構造部材の性能評価法を提示する。 建築設備性能WG : 鋼構造建築物に付帯する建築設備の性能評価法を提示する。	
2003 年度予算	560,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003.6.17 (12 名, WG 活動方針および大会 PD 冊子の原稿について審議), 2003.9.6 (8 名, 大会 PD の打合せ), 2003.12.15 (出席者 5 名, WG 活動状況報告), 2004.3.10 (6 名, WG 活動状況報告およびガイドライン骨子について審議)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)
	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼構造建築物の性能設計ガイドライン作成に向けて、構造躯体、非構造部材、建築設備について性能評価方法の検討を WG を設置して進めた。 ・大会 PD にて本小委員会活動の中間報告を冊子にまとめて発表し、学会会員から意見を聞いた。 ・各 WG の検討結果に基づいて、性能設計ガイドラインの目次(第 1 次案)を作成した。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 計画通りに進捗している。
その他評価すべき事項	2003 年度日本建築学会大会パネルディスカッション『鋼構造の性能設計を考える- 耐震・変形限界を中心として-』を開催した。